HONDA
汎用製品

発電機

ET5000Z

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店またはサービス店にお気軽にお申し付けください。

e-SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。
具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。

LEMA

本製品は、（社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は
・運転をするときには、必ず携帯してください。
・発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、またはサービス店にご注文ください。
仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう …… 4

安全ラベル …… 8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 9

エンジン スイッチ …… 11

オート スロットル スイッチ …… 11

安全スイッチ（ブレーカ） …… 12

ヒューズ …… 12

パイロット ランプ（発電表示灯） …… 13

オイル ランプ（油圧警告灯） …… 13

水温ランプ（水温警告灯） …… 14

リセット スイッチ …… 14

交流コンセント …… 15

アース端子 …… 15

三相出力ターミナル／カバー …… 16

電圧計（三相200V） …… 16

電圧調整つまみ（三相200V） …… 17

燃料コックつまみ …… 17

リモート コントロール スイッチ …… 18

燃料計 …… 18

ホイール ストッパ …… 19

トップ カバー ストッパ …… 20

運転する前に点検しましょう …… 21

燃料の点検 …… 21

エンジン オイルの点検 …… 23

エア クリーナ（空気清浄器）の点検 …… 24
ラジエータ液（冷却水）の点検 …… 25
バッテリの点検 …… 26
発電機周囲の点検 …… 27
発電機のかけかた …… 28
電気の取出しかた …… 32
三相 …… 32
単相 …… 36
発電機のとめかた …… 40
定期点検を受けましょう …… 42
やさしい点検・整備 …… 43
エンジン オイルの交換 …… 43
エア クリーナ（空気清浄器）の清掃 …… 45
点火プラグの清掃・調整 …… 47
フューエル ストレーナ（燃料ろ過器）の清掃 …… 49
ヒューズの交換 …… 51
バッテリの取外し・取付け …… 52
常時使用しない場合には …… 53
運搬する場合には …… 54
長期間使用しないときの手入れ …… 55
修理を依頼する前の簡単な点検 …… 57
主要諸元 …… 58
ET5000Zの使用できる範囲 …… 59
配線図 …… 60
別売部品 …… 61

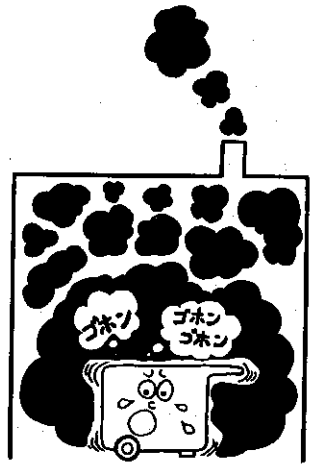
安全にお使いいただくために

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な支持なしでは絶対に誰にも発電機の操作をさせないでください。特に子供には絶対操作させないでください。事故や、本機、使用器具の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転する前に点検しましょう」(21～27頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。

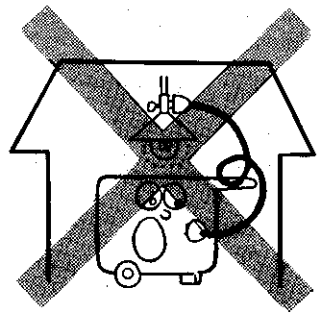


- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
  換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

これだけはぜひ守りましょう

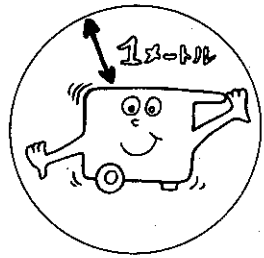
警告

- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときは、タバコを吸ったり、炎や、たき火などの火気を近付けないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 使用場所が小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟らかい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
  本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
  雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
  本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

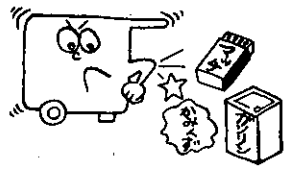


警告

●使用中は



●使用中は建物およびその他の設備から1m以上本機を離してください。
発電機からの排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。
本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。



●使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなります。エンジン本体やマフラなどに触れないでください。やけどなどの傷害を起こします。

●使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。

●使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申し付けください。

●発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。
いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

●エンジン運転中や、エンジンを停止した直後はラジエータ液が高温になります。ラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出し危険です。ラジエータ液の温度が十分に下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。ラジエータ本体のキャップは補助タンクが空になったときやラジエータ液を交換するとき以外は開けないでください。

警告

●使い終ったら

- 発電機を水洗いしないでください。
  電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレータ(気化器)内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。
- 各部の点検、清掃は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを"停止"位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

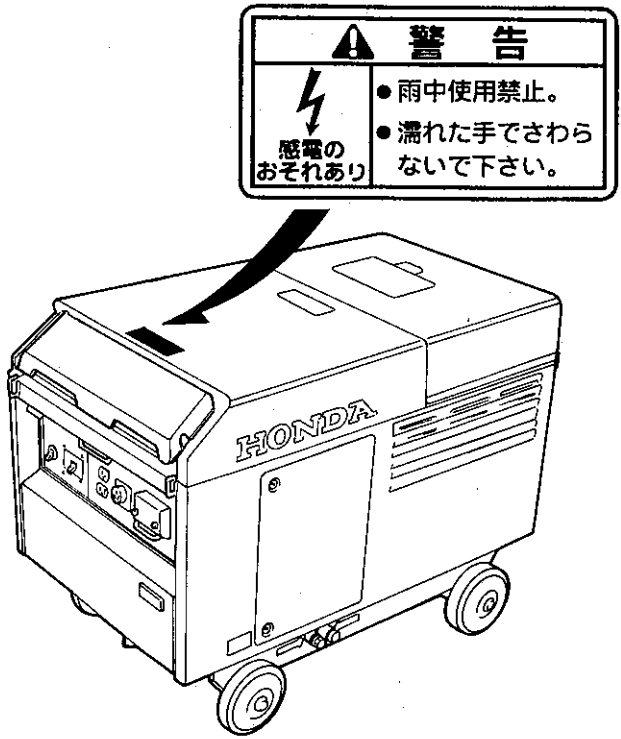
安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。

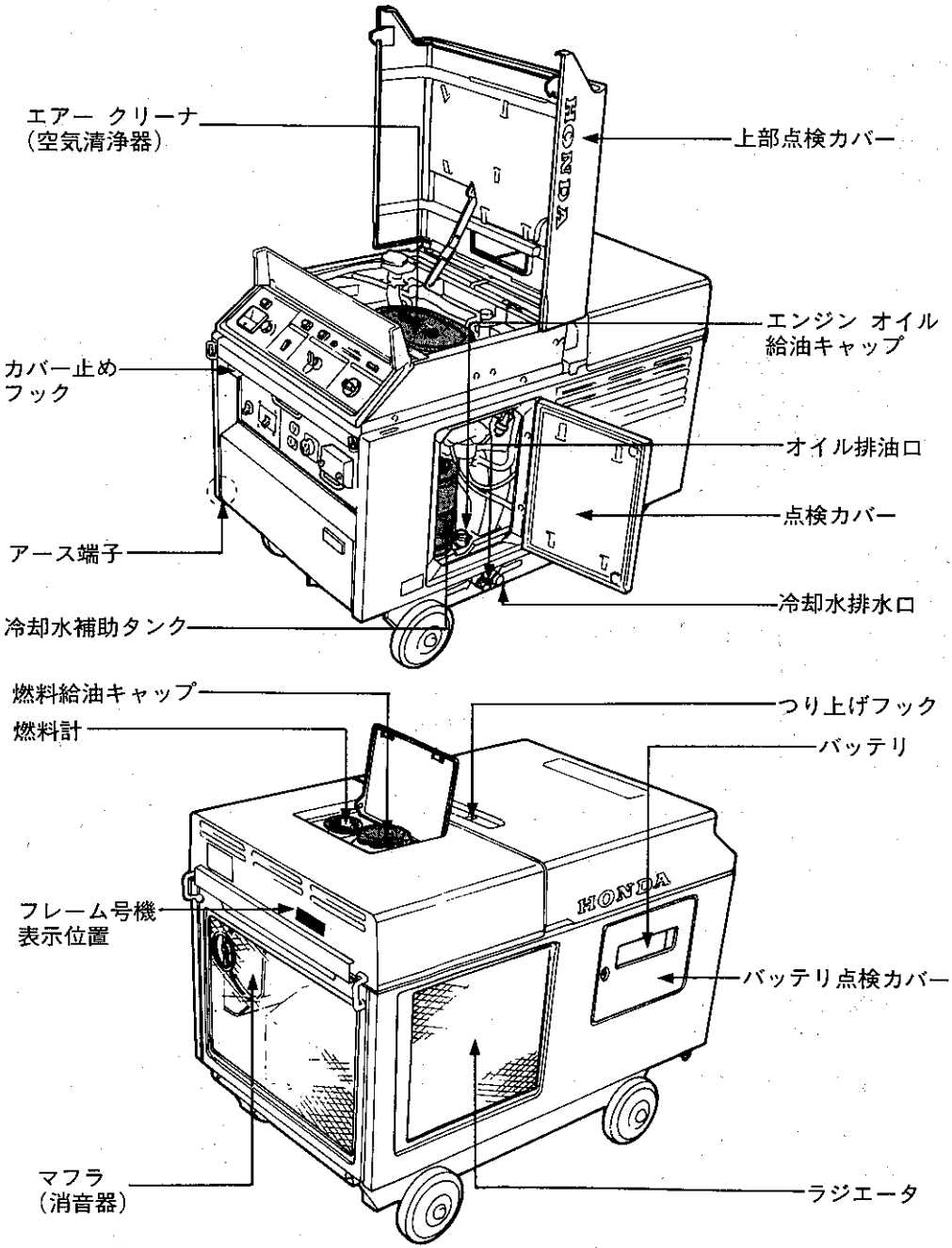
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

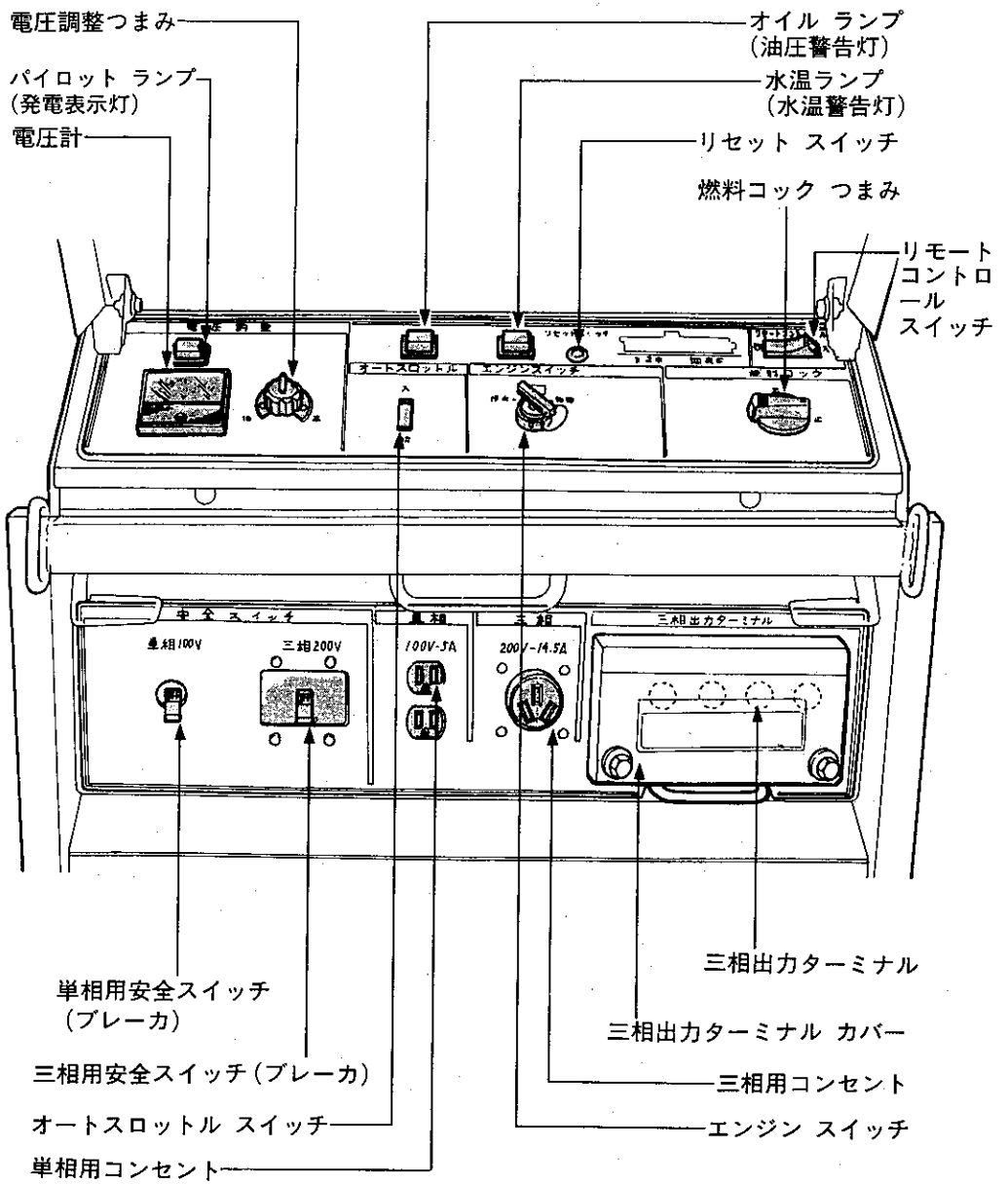
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう




電圧調整つまみ
パイロット ランプ
(発電表示灯)
電圧計
オイル ランプ
(油圧警告灯)
水温ランプ
(水温警告灯)
リセット スイッチ
燃料コック つまみ
リモート
コントロ
ール
スイッチ
オートスロットル
エンジンスイッチ
中全スイッチ
単相100V
三相200V
単相
100V-5A
三相
200V-14.5A
三相出力ターミナル
単相用安全スイッチ
(ブレーカ)
三相用安全スイッチ(ブレーカ)
オートスロットル スイッチ
単相用コンセント
三相出力ターミナル
三相出力ターミナル カバー
三相用コンセント
エンジン スイッチ

エンジン スイッチ

発電機を始動、停止させる時に操作します。

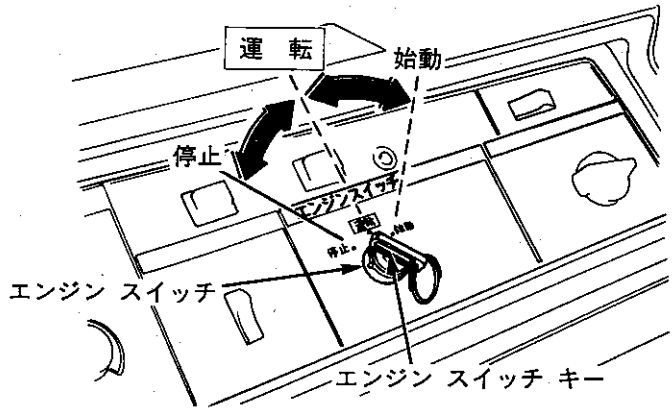
停　止 …キーの抜き差し、エンジン停止の位置です。

運　転 …エンジンのかかっている位置です。

始　動 …エンジン始動の位置です。

エンジンが始動したらキーから手を離してください。

自動的に“運転”の位置に戻ります。



オート スロットル スイッチ

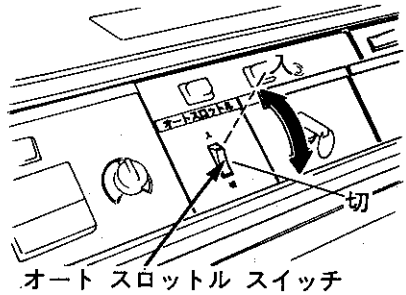
オート スロットルを作動、停止させるスイッチです。

オート スロットルが作動すると、電気を取出していないとき自動的にエンジン回転が下がり、電気を取出しているときに定格回転まで上がります。

始動、暖機時とエンジン回転を下げる必要のないときは、スイッチを“**切**”にします。

入…オート スロットルが作動します。

切…オート スロットルが停止します。



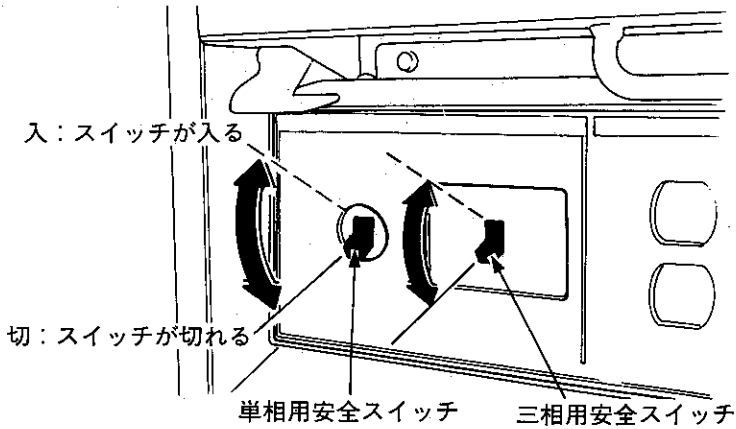
安全スイッチ(ブレーカ)

交流回路を保護します。

発電中に使用器具に異常があった場合や電気の取り出し過ぎのときに安全スイッチ(ブレーカ)が切れ、電気が取り出せなくなります。

使用する電気器具は必ず定格出力内で使用してください。使用できる範囲は主要諸元(58頁)、使用できる範囲(59頁)を参照してください。

安全スイッチが切れた場合はすぐ**"入"**にしないで接続器具に異常がないか、また電気の取り出し過ぎがないか確認してからスイッチを**"入"**にします。

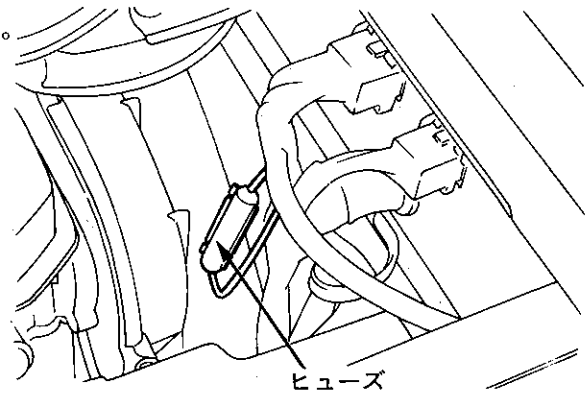


ヒューズ

充電回路、始動回路を保護するためのヒューズです。

ヒューズが切れたまま使用するとバッテリへの充電ができなくなったり、エンジン始動不能となります。

指定ヒューズ：10A

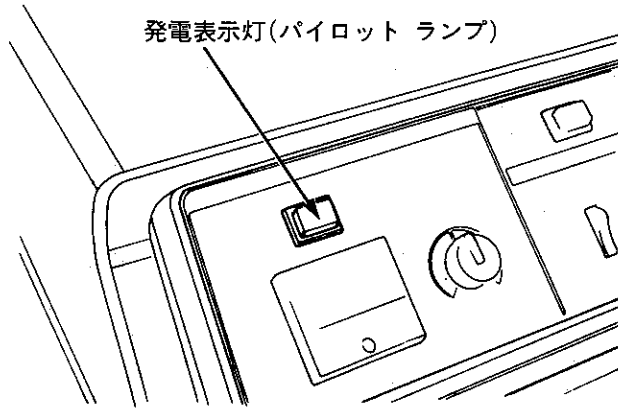


パイロット ランプ(発電表示灯)

発電機が発電していることを表示するランプです。

点灯…発電中

消灯…停止

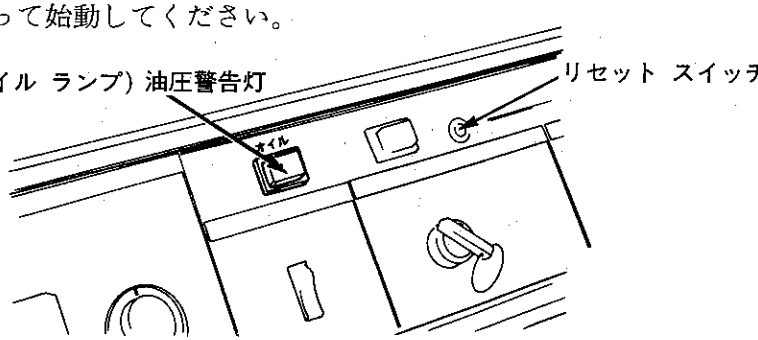


オイル ランプ(油圧警告灯)

エンジン オイルが不足していたり、エンジンの潤滑系統に異常があると点灯し、リセット スイッチが切れ(14頁参照)、エンジンが停止します。

エンジン スイッチを運転にすると点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。

- 万一オイル ランプが点灯し、エンジンが停止した場合は、エンジン オイル量を点検し、不足している場合は補給してください。(エンジン オイルの点検、補給は23頁参照)
- エンジン オイル量が規定量入っている場合は、お買いあげ販売店またはサービス店で点検を受けてください。
- 処置後の再始動はリセット スイッチを押しこんで(14頁参照)から始動要領に従って始動してください。



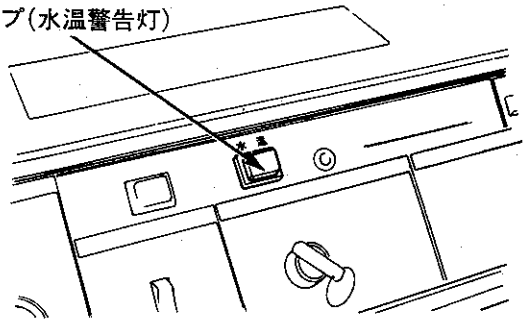
水温ランプ(水温警告灯)

冷却水の温度が異常に高くなったときに点灯し、リセット スイッチが切れ、エンジンが停止します。

・万一水温ランプが点灯し、エンジンが停止した場合は、冷却風取入れ口がふさがれていないか、ラジエータが目詰りしていないか、過負荷になっていないか点検してください。

・ラジエータ液を点検し(25頁参照)、不足している場合は補給してください。

・再始動はリセット スイッチを押しこんでから始動要領に従って始動してください。

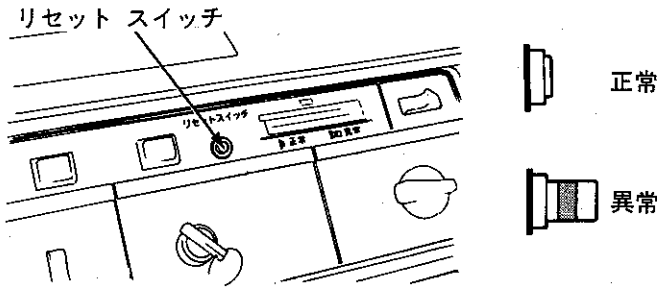


リセット スイッチ

発電機運転中に潤滑系統または冷却系統に異常があった場合、ボタンが飛び出して(それぞれの警告灯が点灯)リセット スイッチが切れエンジンが停止します。

処置後、ボタンを押しこんで(正常状態にして)から再始動してください。

・水温警告灯が点灯(冷却水の温度が上昇)した場合は、水温が下がり警告灯が消灯しないとリセット スイッチが切れ、エンジンの始動ができません。

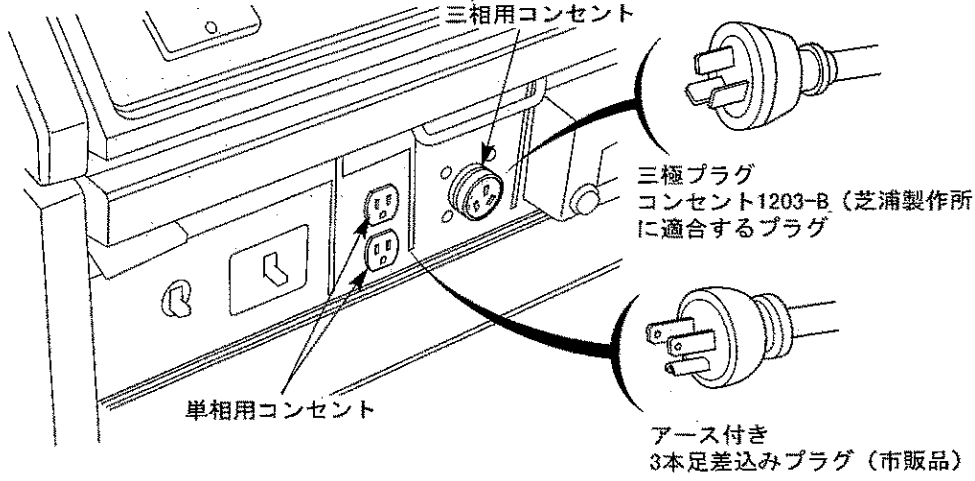


交流コンセント

交流電気を取出すところです。

コンセントへプラグを差し込む場合は、接触不良、抜けのないよう確実に行なってください。

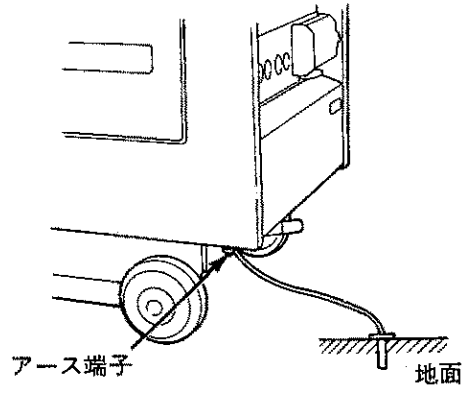
差込みプラグは、図のようなアース付き３本足差込みプラグ(単相100V用)、三極プラグ(三相用)を使用してください。



アース端子

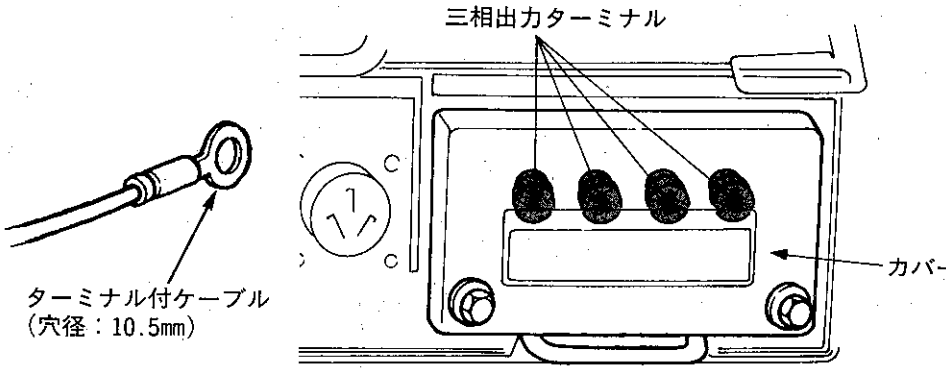
発電機を地面にアースする端子です。

使用器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。



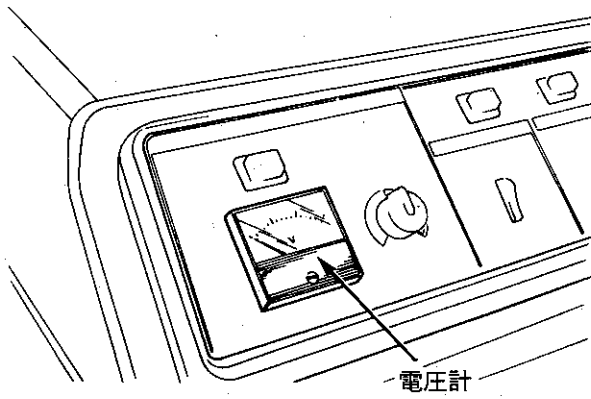
三相出力ターミナル／カバー

三相出力ターミナルは三相の電気を取出すターミナルです。
接続ケーブルはターミナル付ケーブルを使用してください。
結線後カバーを閉じ、締付けボルトを確実に締付けてください。カバーが完全に閉じていないとカバー スイッチが働きエンジンは始動しません。
・三相ターミナルの取扱いは電気工事資格者が行ってください。



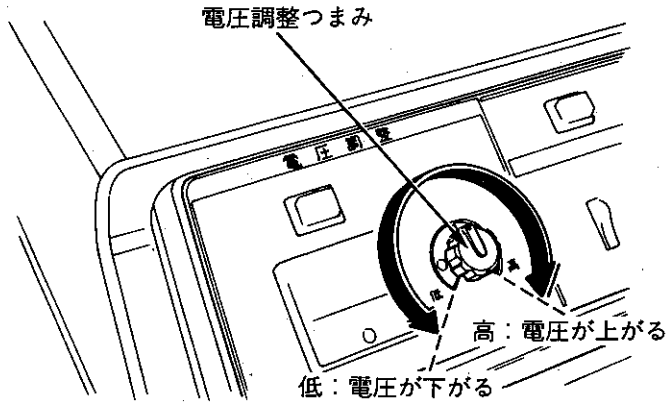
電圧計(三相200V)

発電機の三相200V出力の発生電圧を表示します。



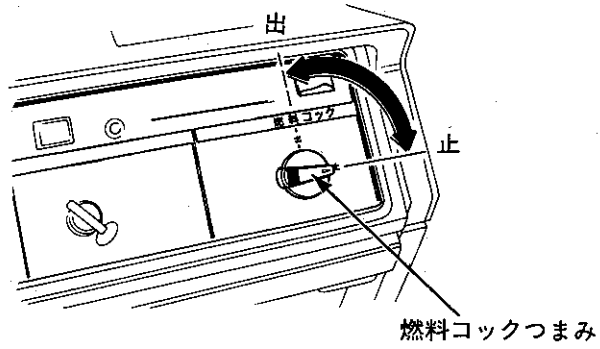
電圧調整つまみ(三相200V)

電圧を調整する装置で、電圧調整が必要なときに操作します。



燃料コックつまみ

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの通路を開閉する時に操作します。
操作は確実に“出”“止”の位置に合わせください。

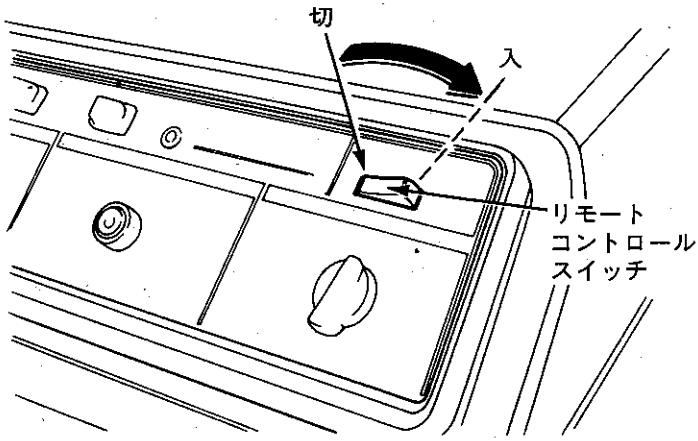


リモート コントロール スイッチ

別売部品のリモート コントロール キット(61頁参照)を使用する時に操作します。

入：リモート コントロールでエンジン始動・停止ができます。

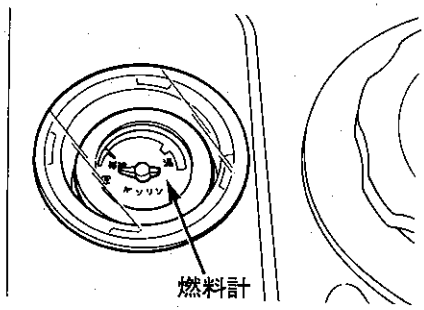
切：エンジン スイッチでエンジン始動・停止ができます。



燃料計

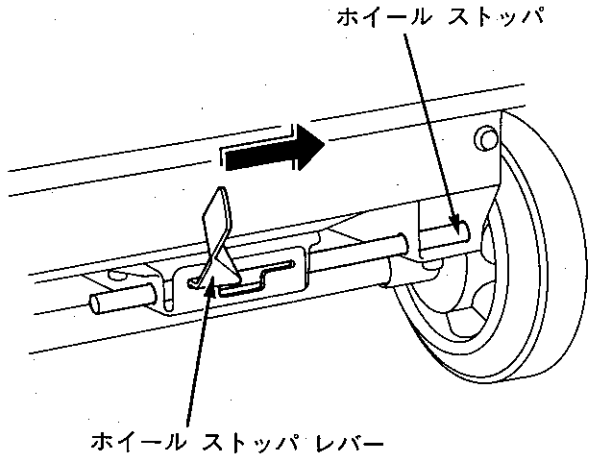
燃料の残量を示します。

燃料計の針が**"補給"**に近づいたら早目に補給してください。



ホイール ストッパ

レバーを矢印方向にスライドさせたホイール ストッパの先端を車輪の溝に入れ車輪を固定します。



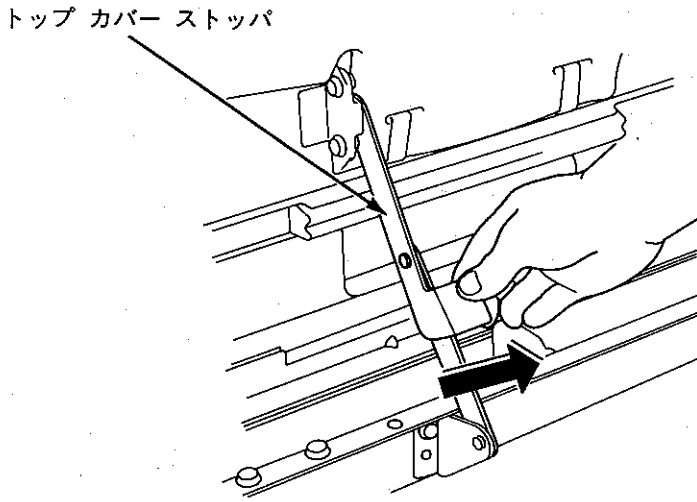
⚠注意

発電機を運転する場合はホイール ストッパで車輪を固定し、さらにホイール ストッパのない車輪は石や木片で輪止めをしてください。車輪を固定せずに運転すると発電機が移動し思わぬ事故の原因となります。

トップ カバー ストッパ

上部点検カバーを開き、トップ カバー ストッパが一直線になった位置で固定されます。

閉じるときは上部点検カバーを軽く押さえ、トップ カバー ストッパをゆっくり手前に引いてください。



運転する前に点検しましょう

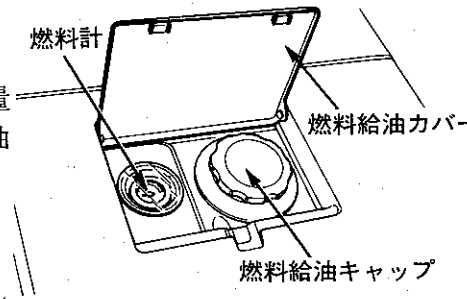
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外して行ってください。

燃料の点検

点検

燃料給油カバーを開き、燃料計で燃料の量を点検してください。少ない場合は燃料給油キャップを外して補給してください。

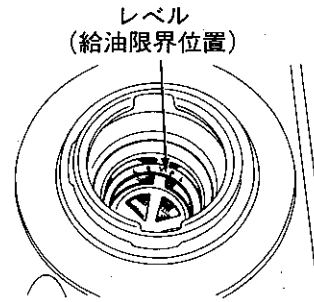


補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)を越えないように燃料を補給します。レベルより上に補給すると燃料が燃料給油キャップよりにじみ出ることがなります。
- 補給後、キャップは完全にはめ込み、確実に締付けてください。

タンク容量：12ℓ



⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

- **エンジンを停止してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **換気の良い場所で補給してください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

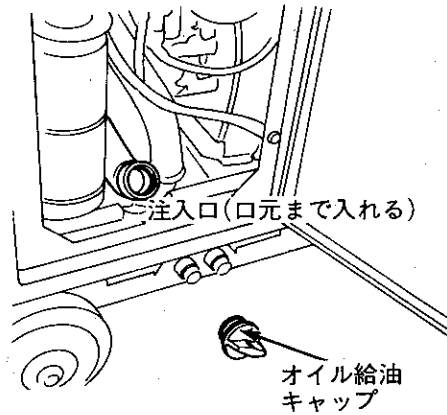
⚠警告

・燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全に拭き取ってください。拭き取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は口元まで入れず所定のレベルまで補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

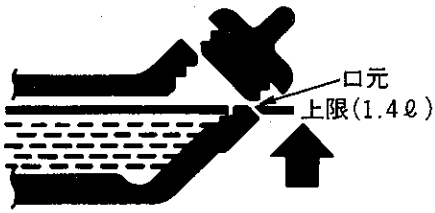
エンジン オイルの点検

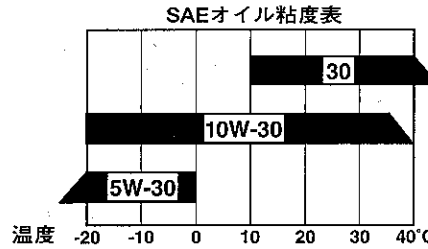


点検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は43頁参照)





補給

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。

・推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
ホンダ純正　ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級またはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

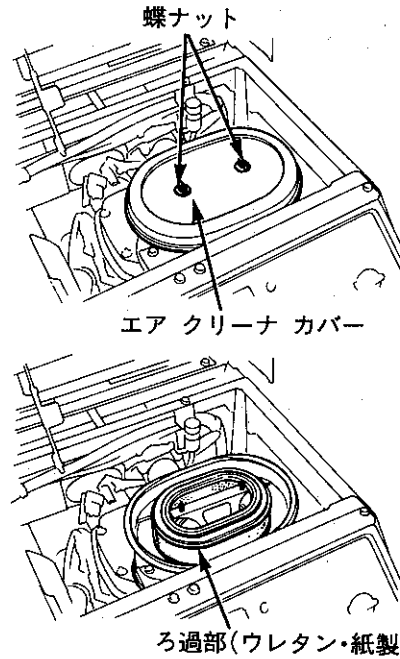
取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時ではAPI分類SE、SF級またはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。**
- **給油キャップは確実に締付けてください。確実に締付けないとオイルが漏れることがあります。**

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

1. 上部点検カバーを開け、トップ カバー ストッパで固定します。(20頁参照)
2. 蝶ナットを外して、エア クリーナ カバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン・紙製)の汚れを点検します。
   汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン・紙製)の清掃をします。(清掃方法は45頁参照)
4. ろ過部(ウレタン・紙製)とエア クリーナ カバーを確実に取付けます。



取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン・紙製)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン・紙製)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン・紙製)などは確実に取付けてください。

5. 上部点検カバーを閉めます。(20頁参照)

ラジエータ液(冷却水)の点検

⚠注意

- **エンジン運転中や、エンジンを停止した直後などラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出しやけどをするおそれがあります。ラジエータ液の温度が十分に下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。**
- **ラジエータ本体のキャップは補助タンクが空になったときやラジエータ液を交換するとき以外は開けないでください。**

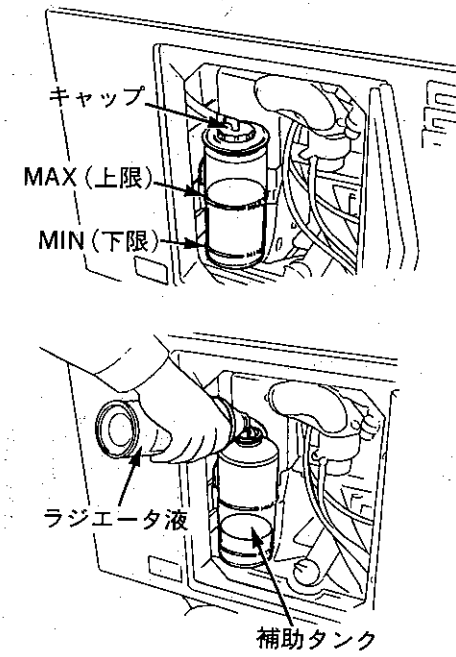
点　検

ラジエータ、ラジエータ ホースなどからの液漏れ、補助タンクの液量、ラジエータ キャップが確実に締っているか点検してください。

補　給

補助タンクのキャップを外し、"MAX"(上限)まで補給します。
指定液の濃度を30%(寒冷地50%)にしてご使用ください。
液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますが、エンジン温度に関係なく"MAX"(上限)まで補給します。

- **指定ラジエータ液：ホンダ純正ウルトララジエータ液**



取扱いのポイント

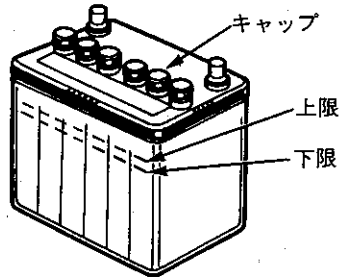
- **ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。**
- **指定以外のラジエータ液や不適当な水を使用すると、錆などの原因となります。**

バッテリの点検

⚠ 警告

- **バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電するとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

・バッテリの液面が上限と下限の間にあるか点検します。
・キャップの通気孔の詰まりがないことを点検します。
・バッテリの接続がまちがっていないか、締め付けナットがゆるんでいないか点検します。
・少ないときはバッテリを取外し(52頁参照)、キャップを外して蒸留水を上限まで補給します。

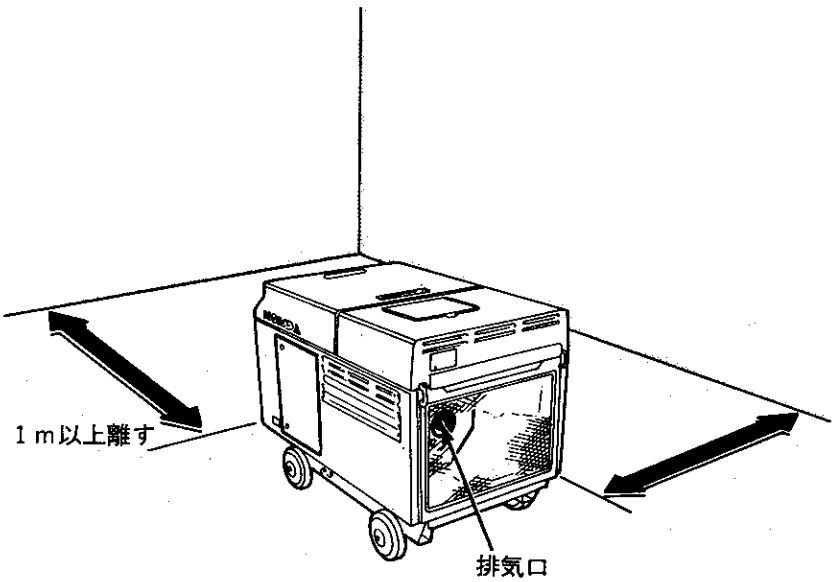


取扱いのポイント

- **必ず蒸留水を補給してください。水道水はバッテリの寿命を縮める原因となります。**
- **上限以上に蒸留水を補給しないでください。入れすぎると電解液がこぼれて金属を腐食させる原因となります。万一バッテリ液をこぼしたときには水洗いしてください。**

発電機周囲の点検

・燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
・建造物、および他の設置物から１m以上離れていますか。
・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
・排気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
・周囲に火の気はないですか。
・発電機をダンボール等で囲っていませんか。
・ラジエータ前面が完全にあいていますか。
・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。やむをえず使用する場合は発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
・カバー類は確実に閉じていますか。
・傾斜地では使用しないでください。
・ホイール ストッパで車輪を固定してください。(19頁参照)さらに他の車輪は木や石などで輪止めをしてください。



発　電　機　の　か　け　か　た

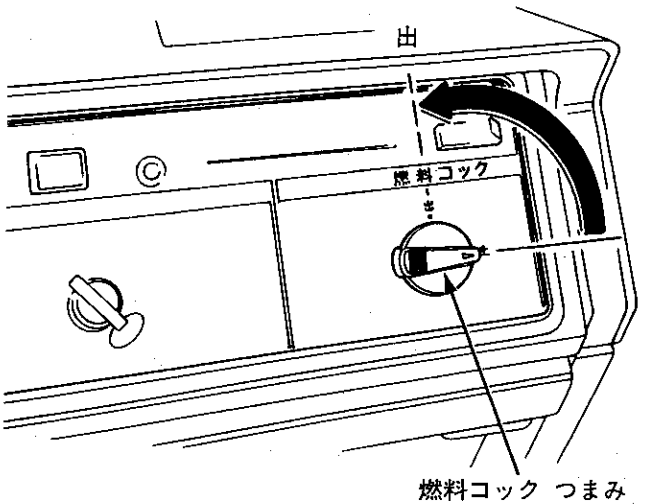
⚠警告

屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

安全スイッチが“切(OFF)”であり、さらに発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜けていることを確認してください。
使用器具が接続されたままで安全スイッチが“入”になったまま始動すると使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1．燃料コックつまみを“出”の位置に合わせます。

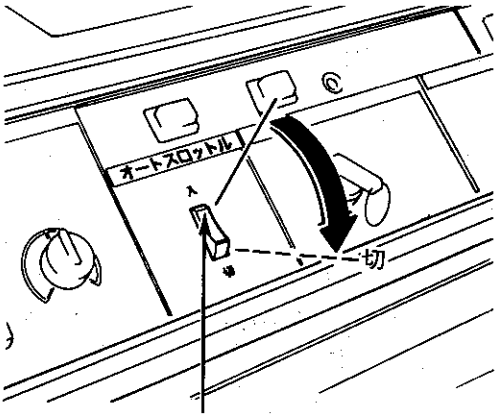


取扱いのポイント

初めて燃料を入れた時、又は長期保存、ガス欠後始動する場合には、エンジン スイッチを“運転”の位置にして10～20秒待ってから始動してください。

2．オート スロットル スイッチを“切”の位置にします。

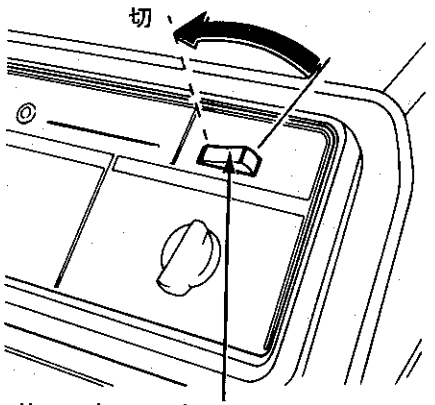
・オート スロットル スイッチを“入”の位置のままエンジンを始動すると、エンジン暖機に時間がかかります。“切”の位置でエンジンを始動してください。



オート スロットル スイッチ

3．リモート コントロール スイッチを“切”の位置にします。

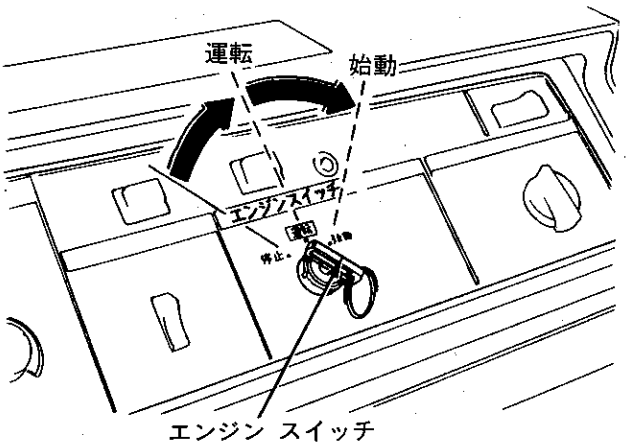
・リモート コントロール スイッチが“入”の位置ではエンジン スイッチでエンジンを始動できません。エンジン スイッチで始動する場合はリモート コントロール スイッチを“切”の位置にしてください。



リモート コントロール スイッチ

4．エンジン スイッチを運転の位置にし、油圧警告灯が点灯することを確認します。
・点灯しない場合はお買いあげ販売店またはサービス店で点検を受けてください。

5．エンジン スイッチを**“始動”**の位置まで回わし、セルフ スタータを回します。
エンジンが始動したらスイッチから手を離し**“運転”**の位置に戻します。

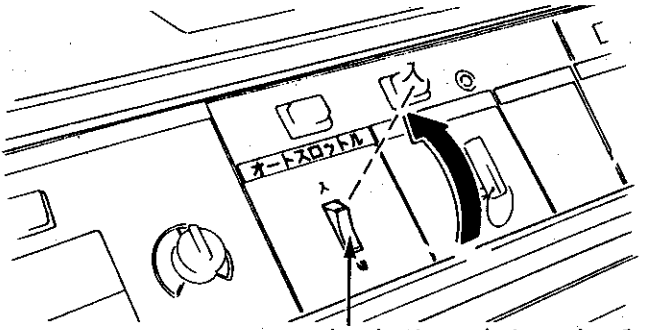


取扱いのポイント

- **セルフ スタータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しない場合は、10秒以上休んでから再び始動してください。**
- **運転中はエンジン スイッチを操作しないでください。始動装置を破損することがあります。**

・エンジンが始動すると発電表示灯が点灯、油圧警告灯が消灯します。

6．２～３分間暖機運転を行ないます。暖機運転をするとエンジン回転が安定し、電圧変動がなくなります。エンジンが暖まったら、オート スロットル スイッチを“**入**”の位置にします。



・取り出し電流が微小(１A以下)の場合はオート スロットル スイッチを“**入**”の位置にしてもエンジン回転が上がりません。オート スロットル スイッチを“**切**”の位置にしてお使いください。
・起動電流の大きいモータなどのような瞬間的に電力を取り出す場合はオート スロットル スイッチを“**切**”の位置にして使用してください。

電　気　の　取　出　し　か　た

使用器具を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠警告

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。

・発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

三相

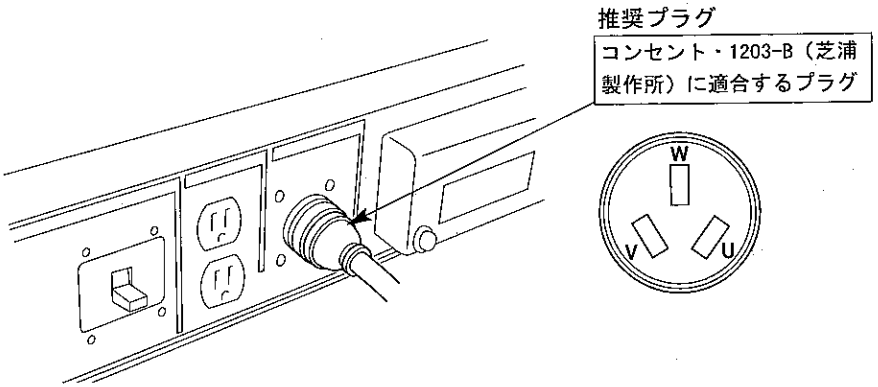
三相用コンセントを使用するときは；

1．“発電機のかけかた”に従ってエンジンを始動します。
2．使用器具のスイッチが切れていることを確認し、三相用コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。

⚠注意

接続する使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

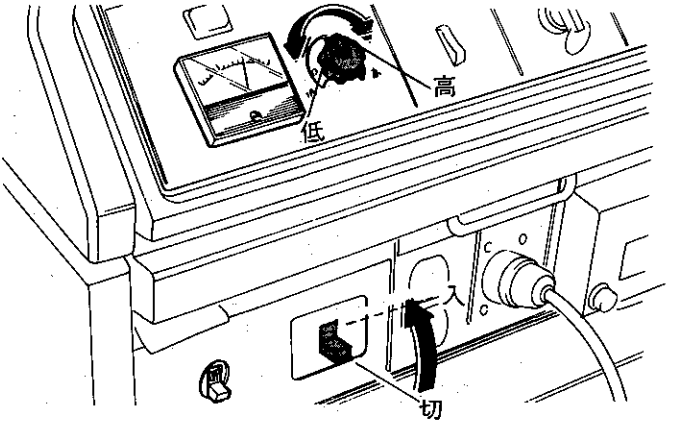
・差込みプラグは下記推奨プラグを使用してください。



3．三相用安全スイッチを“**入**”の位置に合わせてから接続電気器具のスイッチを入れます。

・電圧計の針が200Vの位置を指していることを確認します。電圧計が200Vを指していないときは、電圧調整つまみで調整します。

・電圧を200V(定格電圧)で使用しないと電気器具の寿命を短かくし、低くすると十分な出力が得られません。常に200V(定格電圧)に合わせて使用してください。



取扱いのポイント

- **14.5A以下で使用してください。**
- **差し込みプラグが引っ張られないように、コードにたるみを持たせてください。**
- **使用器具によっては過負荷となり安全スイッチが切れることがあります。使用できる範囲は59頁を参照してください。**
- **安全スイッチが切れた場合はすぐに“入”にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してから安全スイッチを“入”にしてください。**

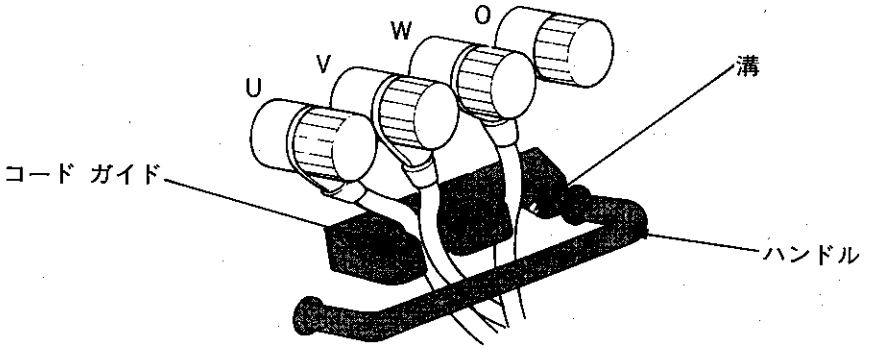
三相ターミナルを使用するときは；

⚠注意

- **ターミナルの接続はエンジンを停止して行ってください。**
- **運転中にゆるまないようにターミナルを確実に締付けてください。締付けがゆるいと締付け部より発熱し火災のおそれがあります。**
- **ターミナルの締付け部は露出部があります。結線後はカバーを確実に閉じ締付けボルトを締付けてください。**

・出力ターミナルの接続は、電気工事資格者が行なってください。

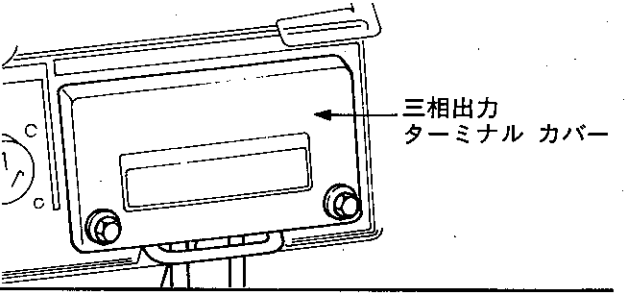
1．出力ターミナルに配線を取付けます。
　配線はハンドルの内側を通し、コード ガイドの溝に入れてください。



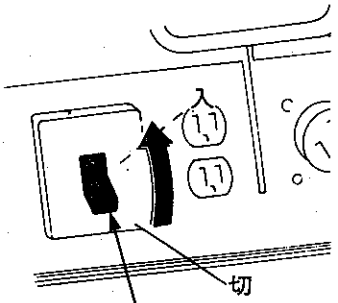
取扱いのポイント

U・V・Wの結線には十分注意してください。（まちがうとモータなどが逆転します。）

2．出力ターミナル カバーを確実に締め付けます。
　カバーが確実に締っていないとターミナル カバー スイッチが働き、エンジンは始動しません。



3．エンジンを始動し、三相用安全スイッチを“入”の位置に合わせてから使用器具のスイッチを入れます。



三相用安全スイッチ

取扱いのポイント

- **使用器具によっては過負荷となり安全スイッチが切れることがあります。使用できる範囲は59頁を参照してください。**
- **安全スイッチが切れた場合はすぐに“入”にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してから安全スイッチを“入”にしてください。**

単相

単相用コンセントを使用するときは；

1．発電機のかけかたに従ってエンジンを始動します。

2．使用器具のスイッチが切れていることを確認し、単相用コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。

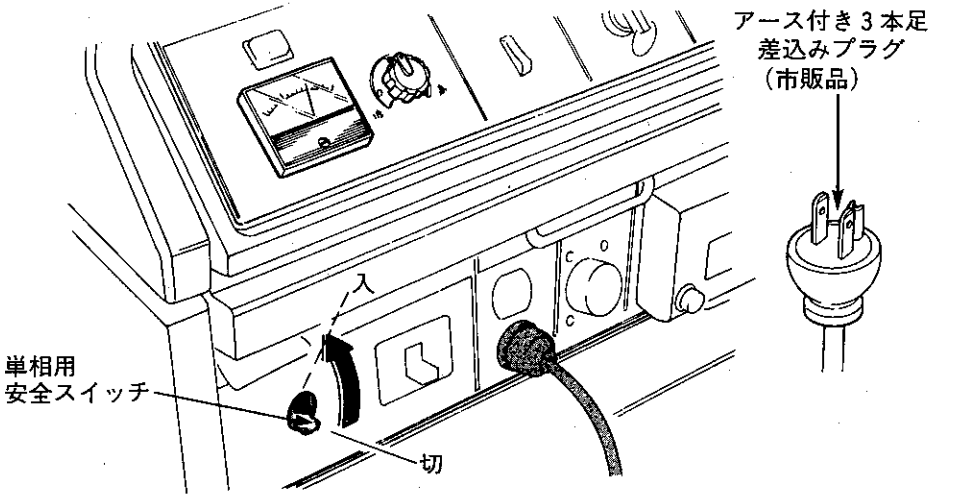
⚠注意

接続する使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

取扱いのポイント

・電圧計は200Vに合わせてください。単相100Vは指示しません。
200V以上／以下に合せると十分な単相(100V)出力がえられません。

3．単相用安全スイッチを“入”の位置に合わせてから使用器具のスイッチを入れます。



・差込みプラグはアース付き３本足差込みプラグ（市販品）を使用してください。

2つのコンセントより合計して下記の交流出力が取り出せます。

J型(50Hz)	N型(60Hz)
100V-5.0KVAまで	100V-5.0KVAまで

取扱いのポイント

- **1つのコンセントは5A以下で使用してください。**
- **三相と同時に使用するときは合計が5.0KVAを越えないようにしてください。**
- **差し込みプラグが引っ張られないように、コードにたるみを持たせてください。**
- **使用器具によっては過負荷となり安全スイッチが切れることがあります。**
- **安全スイッチが切れた場合はすぐに"入"にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してから安全スイッチを"入"にしてください。**

三相ターミナルを使用するときは：

⚠注意

- **ターミナルの接続はエンジンを停止して行ってください。**
- **運転中にゆるまないようにターミナルを確実に締付けてください。締付けがゆるいと締付け部より発熱し火災のおそれがあります。**
- **ターミナルの締付け部は露出部があります。結線後はカバーを確実に閉じ締付けボルトを締付けてください。**

・ターミナルの接続は電気工事資格者が行ってください。

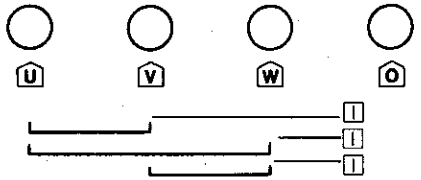
・三相ターミナルを使用して単相200Vと単相115Vの取出しもできます。次頁の手順で接続して使用してください。

取扱いのポイント

- **単相200Vと単相115Vの同時使用はさけてください。**
- **単相115Vを取り出している時は、単相115Vで電圧に敏感な器具(通信機器等）の使用はさけてください。**

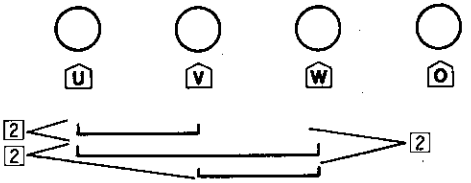
接続・使用方法

単相200V



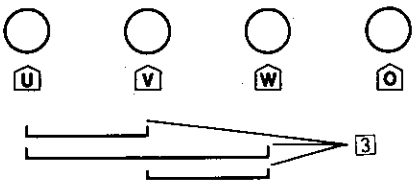
1 1回路のみ使用するときは、
1.3kVAを越えないでください。
接続：U－V間、U－W間、V－W間
のいずれか1回路

2 2回路を同時に使用するときは、2回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が3.3kVAを越えないでください。



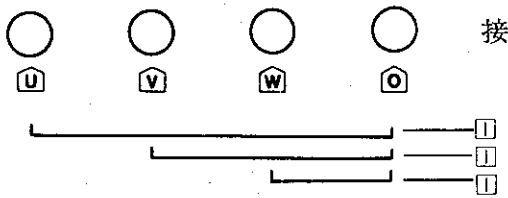
接続：U－V間とU－W間
U－W間とV－W間
U－V間とV－W間の
いずれか2回路

3 3回路を同時に使用するときは、3回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が5.0kVAを越えないでください。

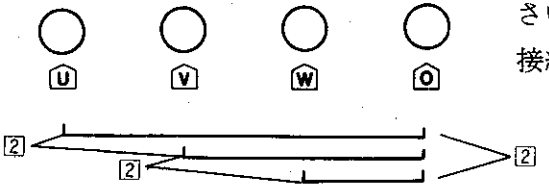


接続：U－V間とU－W間とV－W間

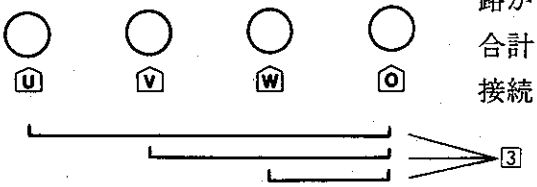
単相115V



1 回路のみ使用するときは、
1.3kVAを越えないでください。
接続：U－O間、V－O間、W－O間
のいずれか 1 回路



2 回路を同時に使用するときは、2 回路からそれぞれ均等に取り出し、
その合計が3.3kVAを越えないでください。
接続：U－O間とV－O間
V－O間とW－O間
U－O間とW－O間の
いずれか 2 回路



3 回路を同時に使用するときは、3 回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が5.0kVAを越えないでください。
接続：U－O間とV－O間とW－O間

発　電　機　の　と　め　か　た

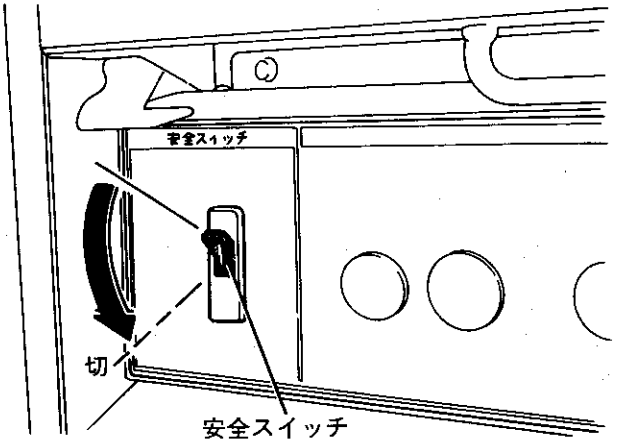
緊急停止

エンジン スイッチを“停止”の位置にします。

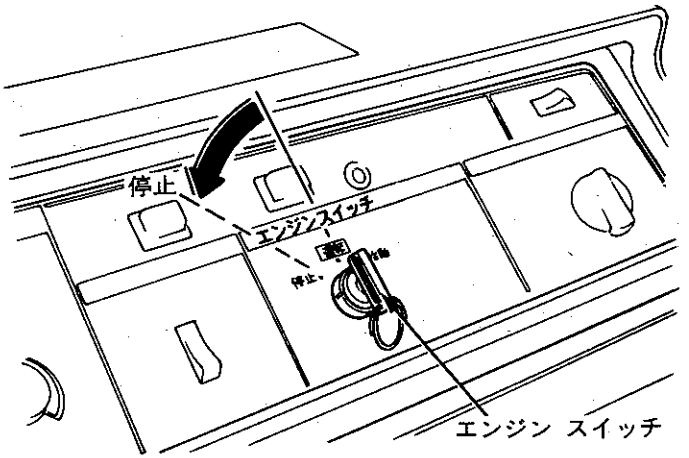
通常の停止

1．使用器具のスイッチを切ります。

2．安全スイッチを“切”の位置にし、プラグをコンセントから抜きます。

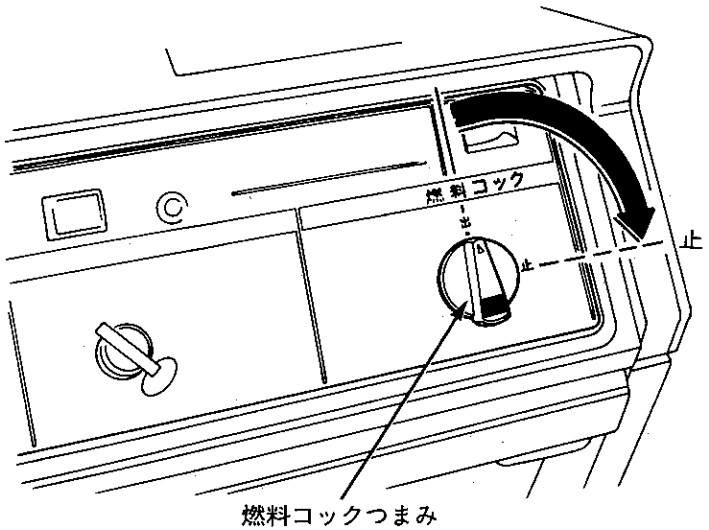


3．エンジン スイッチを“停止”の位置にします。



・交流出力ターミナルは完全にエンジンが停止したことを確認してから接続を外します。

4．燃料コックつまみを“**止**”に合わせます。



⚠警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料コックつまみを“止(OFF)”の位置に合わせてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を受けましょう

販売店またはサービス店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店またはサービス店で定期的に実施していただく項目があります。

お買いあげいただきました発電機をいつまでも安全で調子よく、長持ちさせるために、定期点検をうけましょう。

販売店またはサービス店で実施する定期点検整備項目

吸入、排気弁すき間の点検・調整 …12か月毎または300時間運転毎実施

燃料タンク、燃料ろ過網の清掃 ……12か月毎

カーボン ブラシの点検・清掃……12か月毎

燃料チューブの点検 ……2年毎

ラジエータ液の交換 ……2年毎

タイミング ベルトの交換……4年毎

オイル フィルタの交換 ……12か月毎または200時間運転毎実施

やさしい点検・整備

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを"停止"位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《規定量》 1.4ℓ

《交換時期》

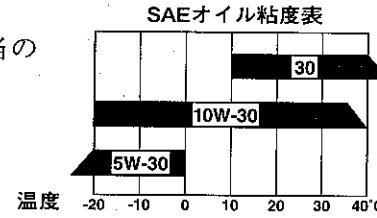
初回：20時間運転時、以後：100時間運転毎または6か月毎です。

《推奨オイル》 4サイクル ガソリン エンジン オイル

ホンダ純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF級またはSG級相当の

SAE10W-30オイルをご使用ください。

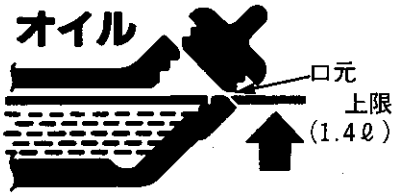


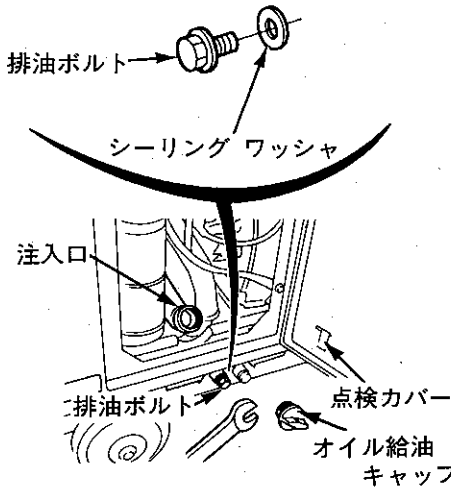
取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時ではAPI分類SE、SF級またはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。**

交換のしかた

1．カバー止めを回し、点検カバーを開きます。
2．オイル給油キャップを外します。
3．排油ボルト、シーリング ワッシャを外して、オイルを抜きます。
4．排油ボルトをきれいにし、新しいシーリング ワッシャを取付け排油ボルトを確実に締付けます。
5．注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
6．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。
7．点検カバーを閉じます。





取扱いのポイント

- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

清掃：50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間運転毎

清掃のしかた

⚠警告

洗油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。

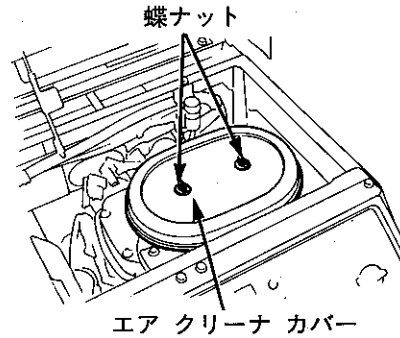
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

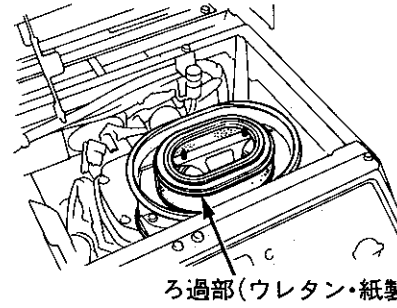
1．上部点検カバーを開き、トップ カバー ストッパで固定します。(20頁参照)

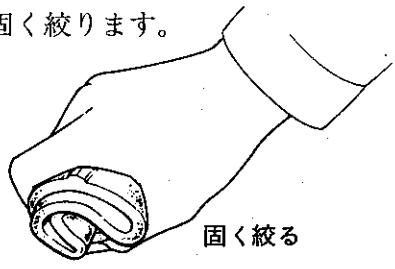
2．蝶ナットを外して、エア クリーナ カバーを取外します。

3．ろ過部(ウレタン・紙製)を取外します。

4．ウレタンのろ過部は、洗油で洗浄するか、中性洗剤を水で薄めて洗い、さらに水ですすいでからよく絞って乾かします。
次にエンジン オイルに浸した後、固く絞ります。







5．紙製のろ過部は、軽くたたいて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換します。
6．ろ過部(ウレタン・紙製)、空気清浄器カバーを確実に取付けます。
7．上部点検カバーを閉じます。(20頁参照)

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン・紙製)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン・紙製)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン・紙製)などは確実に取付けてください。

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので指定プラグ以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。**
- **点検・調整後は点火プラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。**

電極が汚れたり、電極の隙間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因になります。

《清掃時期》

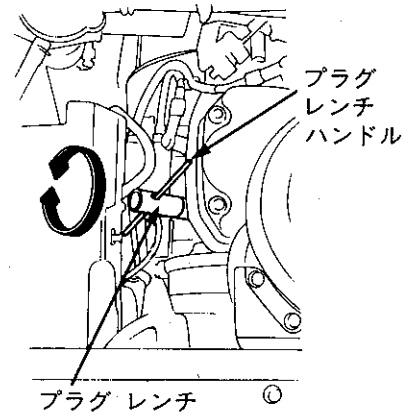
清掃：100時間運転毎

《指定プラグ》

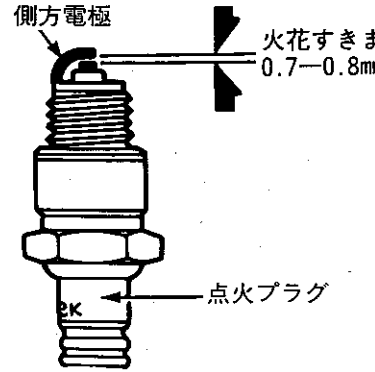
BPR 6 HS(NGK)

清掃・調整のしかた

1．上部点検カバーを開き、トップ カバー ストッパを固定し(20頁参照)、プラグ キャップを取外します。
2．プラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで点火プラグを取外します。



3．点火プラグを清掃します。
清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



4．側方電極を曲げ、火花すきまを0.7～0.8mmに調整します。
5．取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けてください。
6．上部点検カバーを閉じます。(20頁参照)

フューエル ストレーナ(燃料ろ過器)の清掃

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- **火気を近づけないでください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **燃料はこぼさないでください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全に拭き取ってください。拭き取った布などは火災と環境に注意して処分してください。**

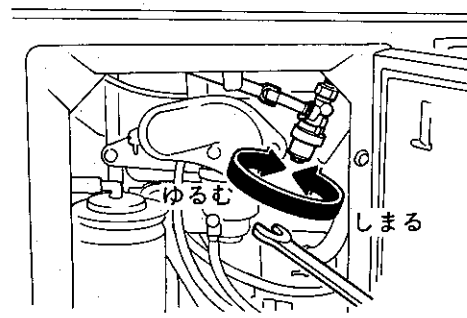
フューエル ストレーナ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

清掃：100時間運転毎

清掃のしかた

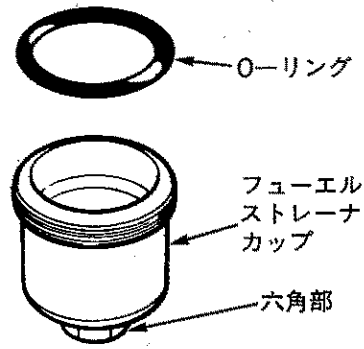
1．カバー止めを外し、点検カバーを開きます。
2．燃料コックつまみを“止”にして、六角部を左に回しフューエル ストレーナ カップを取外します。
3．カップを洗油で洗浄します。



⚠警告

洗油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

4．洗浄後、O－リング、カップを元通りに取付けガソリン漏れのないよう確実に六角部を締付けます。
5．燃料コックつまみを“出”“止”にしフューエル ストレーナから燃料もれがないことを確認します。
6．点検カバーを閉じます。



ヒューズの交換

《指定ヒューズ》

10A

取扱いのポイント

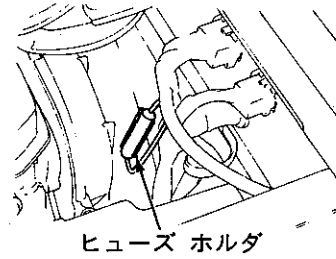
- **ヒューズが切れたら、ヒューズを交換する前に切れた原因を調べてください。**
- **指定ヒューズ以外の針金、銀紙などを使用すると本機に支障をきたす原因となります。**

交換のしかた

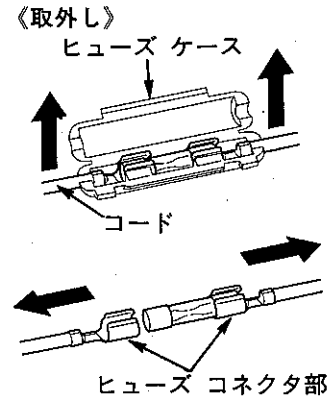
1．上部点検カバーを開きトップ カバーストッパーを固定します。(20頁参照)

2．エンジン スイッチを"停止"にします。

3．ヒューズ ホルダを開き、ヒューズを交換します。

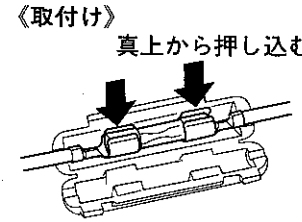


●ヒューズの取外しはヒューズ ケースを開き、ヒューズ コード両端を持って引き上げ、ヒューズ コネクタ部をスライドさせて行ってください。



⚠注意

- **ヒューズ コネクタ部をひろげないように注意して取外してください。**
- **ヒューズをコネクタ部に取付け後、ヒューズが容易にスライド方向(横方向)に動かない確認してください。ヒューズが容易に動くと発熱し思わぬ事故を招くことがあります。**



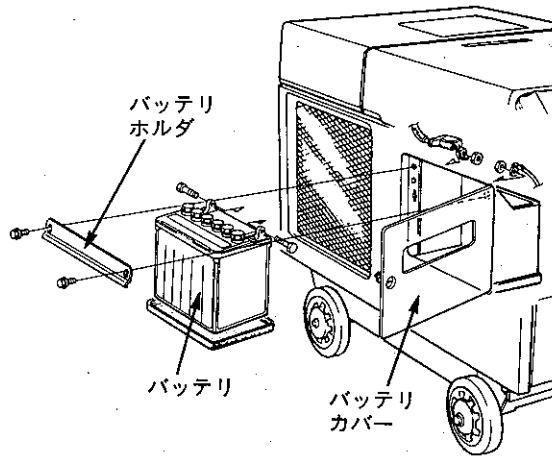
4．上部点検カバーを閉じます。(20頁参照)

バッテリの取外し・取付け

⚠警告

- バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電するとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。ショートする場合があります。

1．カバー止めを外し、バッテリ　カバーを開きます。
2．6mmボルト2本を外し、バッテリホルダを外します。
3．バッテリを引き出します。
4．バッテリ　コードの⊖端子を先に外し、次の⊕端子を外します。



取扱いのポイント

- バッテリ　コードの取外しは必ず上の手順で行い、取付けは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。

5．取外しの逆手順で取付けます。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月１回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化しますので３か月に１回、定期的に新しい燃料と入れ換えてください。

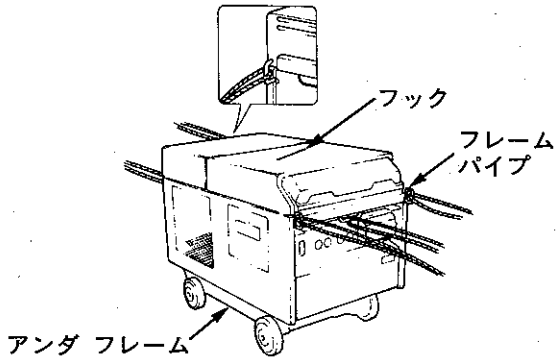
試運転のしかた

1．「運転をする前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジン オイル、エア クリーナを点検します。
2．「発電機のかけかた」にもとづいて始動します。
3．照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4．エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、運転表示灯、油圧警告灯、電圧計、安全スイッチ(ブレーカ)、エンジン スイッチの作動を確認します。

運　搬　す　る　場　合　に　は

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

1．エンジン スイッチを“停止”にします。
2．燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
3．燃料タンク キャップを確実に締付ます。
4．燃料コックを“止”にします。
5．発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。ロープはフレーム パイプにかけてください。



・フォーク リフトで運搬する場合は、フォークをアンダ フレームの下側にかけてください。またつり上げる場合はつり上げフックにロープをかけて行ってください。
・運搬中に発電機を落下させたり衝撃を与えないでください。また発電機の上に重量物をのせないでください。

⚠警告

・燃料を入れたまま発電機を車両に積載し運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります。
・車室内やトランクに発電機を積んだまま直射日光の当たる場所や高温となる場所に長時間放置しないでください。車両の内部が高温となり燃料が気化し引火しやすい状態になります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

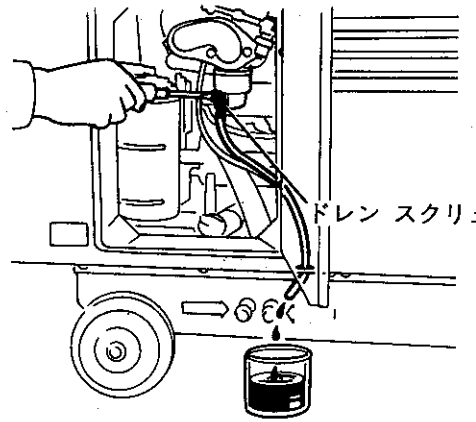
エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ等は非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1．発電機の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2．エア クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(45頁参照)
3．燃料タンク内の燃料を抜きます。
4．キャブレータ(気化器)内の燃料を抜きます。
・燃料コックつまみを“止”にし、キャブレータのドレン スクリュをゆるめて燃料を容器に受けます。完全に燃料が抜けたらドレン スクリュを元に戻します。



⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・燃料はこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全に拭き取ってください。拭き取った布などは火災と環境に注意して処分してください。

取扱いのポイント

燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。

5．フューエル ストレーナ(燃料ろ過器)を清掃します。(清掃：49頁参照)

6．バッテリのアース コードをバッテリの⊖端子から外し(52頁参照)、ビニールテープなどをまいてください。

・バッテリは自然放電しますので1ケ月に1回完全充電してください。

7．ホイール ストッパで車輪を固定します。(19頁参照)

8．発電機にシート等をかけ風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください

エンジンが始動しないとき

1．始動方法は取扱説明書通りですか？（27頁参照）
2．ターミナル カバーは確実に閉じていますか？
3．リセット スイッチが“正常”の位置（押込まれた状態）になっていますか？（14頁参照）
4．ガソリンはありますか？（21頁参照）
5．ヒューズは切れていませんか？（51頁参照）
6．点火プラグが汚れていたり、濡れていませんか？（47頁参照）
7．点火プラグのすき間は正しいですか？（48頁参照）

エンジンが始動しても オイル ランプ(油圧警告灯)が点灯するとき

➡エンジン オイルが減っていませんか？（23頁参照）

水温ランプ(水温警告灯)が点灯するとき

➡ラジエータ液が減っていませんか？（25頁参照）

・警告灯が点灯したときの再始動は、一度エンジンスイッチを“停止”にし、ラジエータ液の量を確認し、水温が下がってからリセット スイッチを押込み、再始動を行ってください。

電気が取出せないとき

1．使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2．少し時間をおいてから安全スイッチを“入”にしてもう一度確かめてください。

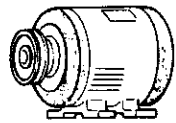
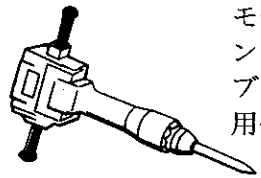
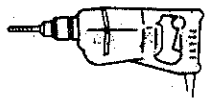
主　要　諸　元

名　称	ホンダ発電機ET5000Z	
型　式	EA1	
原動機の型式	GX360K$_1$	
総排気量	359cm³	
内径×行程	58×68mm	
使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン	
タンク容量	12.0ℓ	
潤滑油量	1.4ℓ	
始動方式	セルフ スタータ式	
発電機型式	2極界磁回転型	
機体型式	フルカバード タイプ	
※寸法		
全長	965mm	(965mm)
全幅	585mm	(590mm)
全高	645mm	(720mm)
※乾燥重量	163kg	(168kg)
出力	J型	N型
定格出力	5.0KVA	5.0KVA
周波数	50Hz	60Hz
三相電圧	200V	200V
三相電流	14.5A	14.5A
単相電圧	100V	100V
単相電流	5A	5A
電圧調整	AVR(自動電圧制御方式)	
出力端子	(三相) 3極コンセント 陸式ターミナル (単相) アース付2極コンセント	

※( ) 内の寸法・重量は4輪装着時の寸法を示す。

この諸元は予告なく変更することがあります。

ET5000Z の使用できる範囲

使用内容			使用できる範囲
三相	200V	 三相モータ	1台を起動する時の負荷 2.2kWまで
		 モータ以外：コンクリートバイブレータ・建築用作業機 など	5.0kVA まで
単相	100V	 ドリル・建築用作業機 など	0.5kVA まで
		照明・電熱器 テレビ・ラジオ など	0.5kVA まで

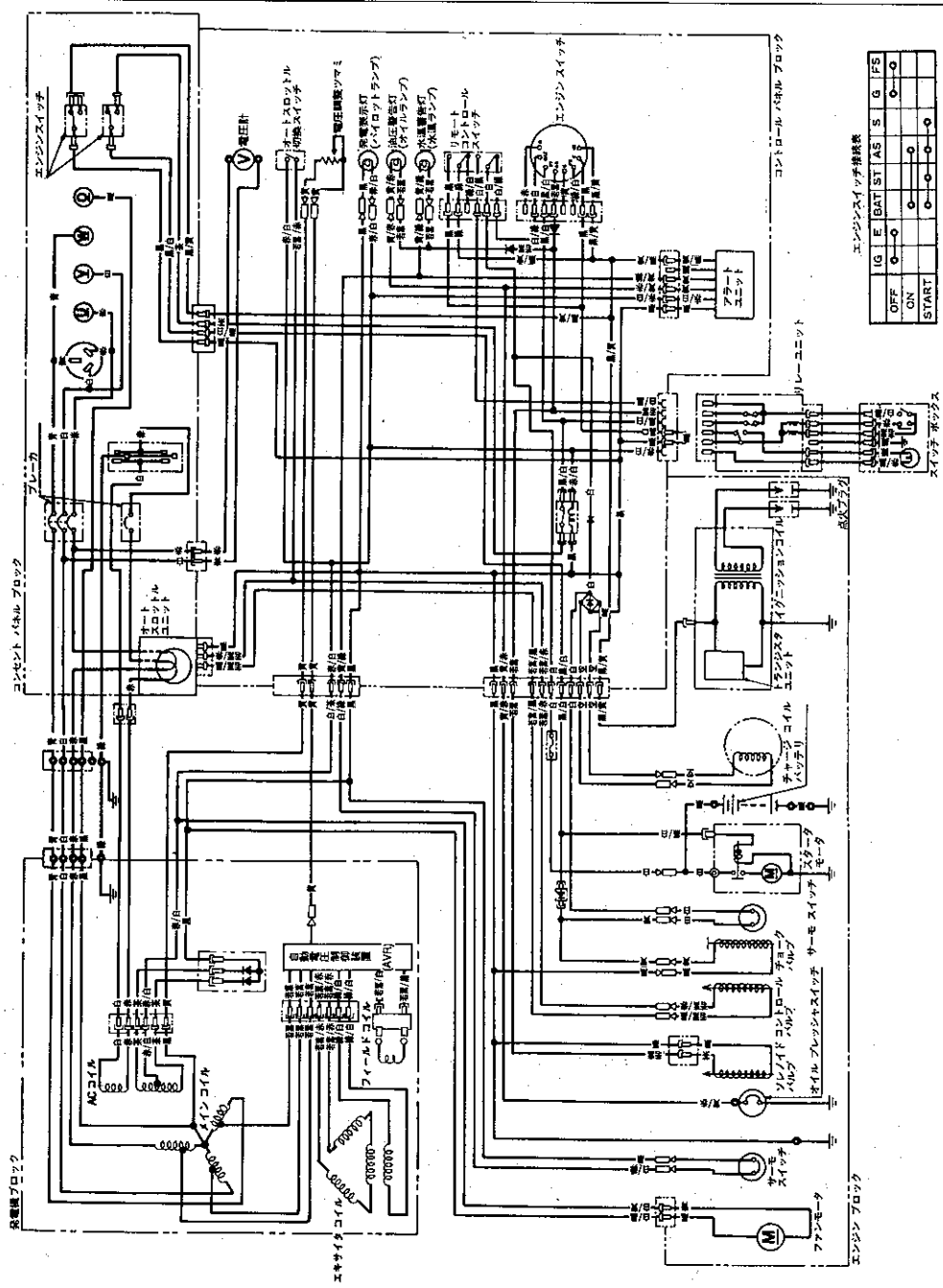
三相200Vと単相100Vを同時に使用する時は、その合計が5.0kVAを越えないでください。
モータは起動電流の多い製品、または種類によっても使用できない場合があります。
詳しくはお買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

上記の範囲内でご使用ください。

安定器の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタル ハライド ランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生するおそれがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

配　線　図

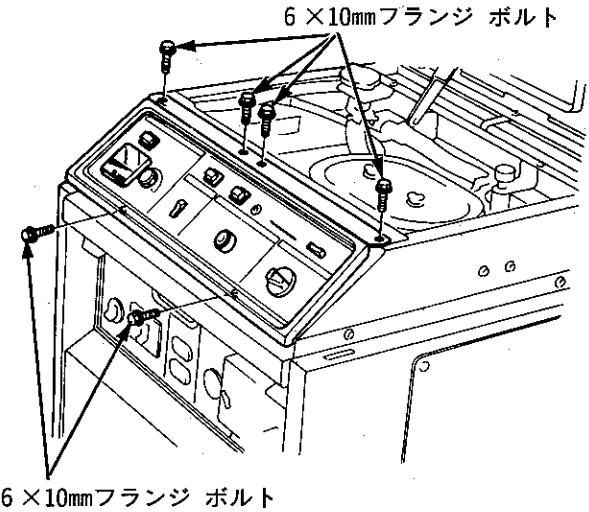

エンジンスイッチ
電圧計
オートスロットル切換スイッチ
電圧調整ツマミ
充電表示灯
(パイロットランプ)
油圧警告灯
(オイルランプ)
水温警告灯
(水温ランプ)
リモートコントロールスイッチ
エンジンスイッチ
コントロールパネルブロック
アラートユニット
リレーユニット
スイッチボックス
ブレーカ
コンセントパネルブロック
オートスロットルユニット
イグニッションコイル
点火プラグ
エンジンスタートユニット
チャージングコイル
バッテリ
スターターモータ
サーモスイッチ
チョークバルブ
ソレノイドコントロールバルブ
オイルプレッシャスイッチ
サーモスイッチ
ファンモータ
エンジンブロック
ACコイル
メインコイル
フィールドコイル
自動電圧調整器(AVR)
エキサイタコイル
発電機ブロック
エンジンスイッチ接続表
IG
E
BAT
ST
ACS
S
G
FS
OFF
ON
START

別　　売　　部　　品

●リモート コントロール キット

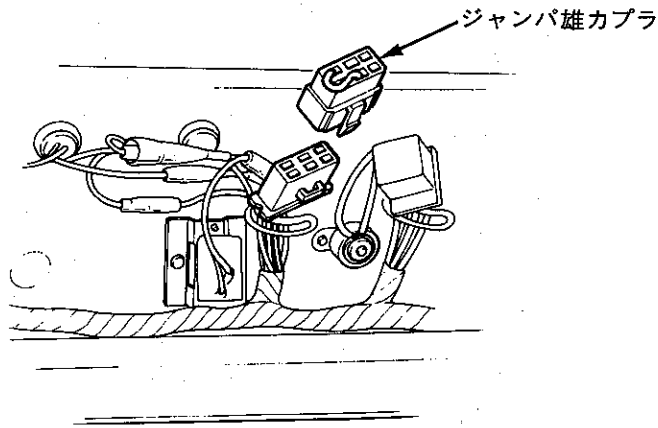
<取り付け手順>

1．6×10㎜フランジ ボルトを外し、コントロール パネルを取り外します。



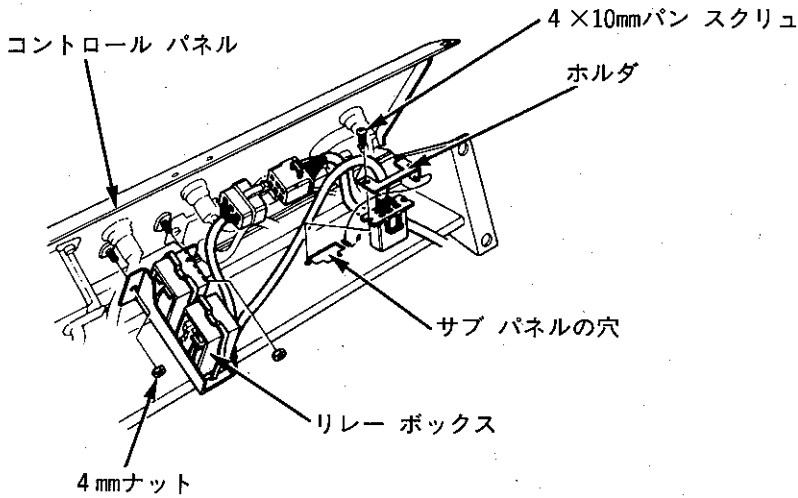
2．リレー ボックスをコントロール パネルの裏面に4㎜ナットで取付けます。

ワイヤ ハーネスの雌カプラから、ジャンパ雄カプラを外します。



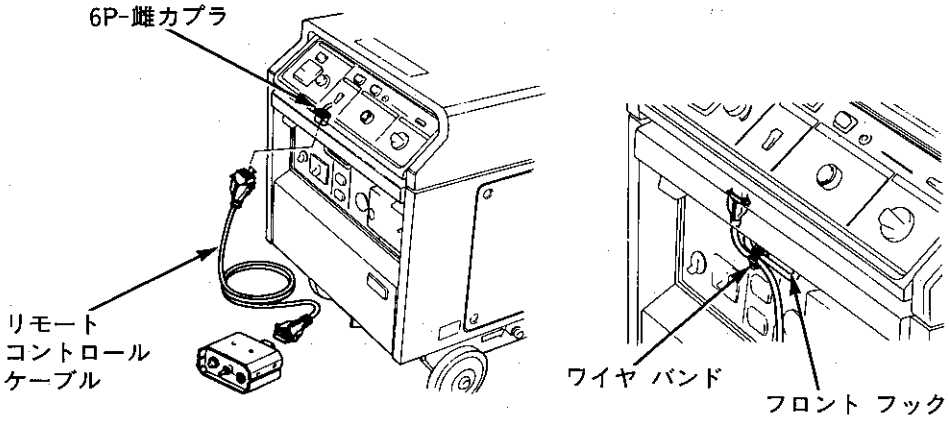
3．ワイヤ ハーネスの雌カプラにリレー ボックスの6P-雄カプラを取り付けます。

4．リレー ボックスの6P-雌カプラをホルダと4×10㎜のパン スクリュでサブ パネルの穴に取り付けます。



5．コントロール パネルを取り付けます。

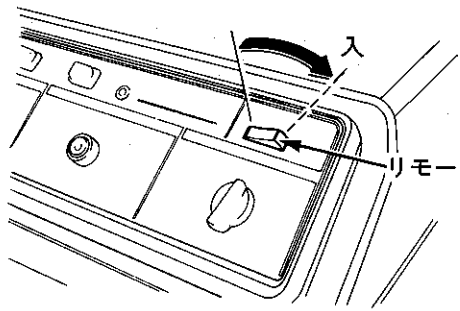
6．リモート コントロール ケーブルのカプラを取り付け、フロント フックにワイヤ バンドでケーブルを固定します。



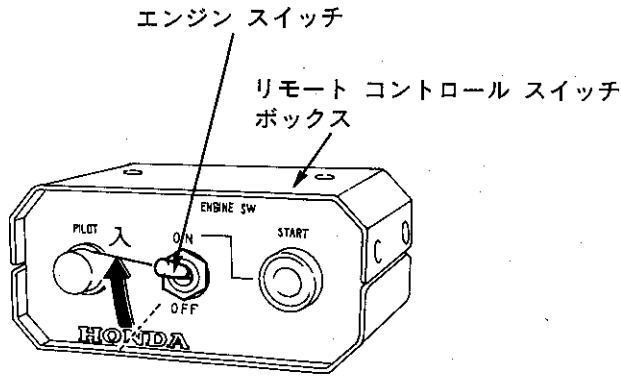
〈操作手順〉

始動

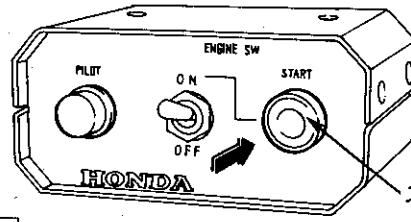
1．燃料コックつまみを“**出**”の位置にします。(28頁参照)
2．オート スロットル スイッチを“**切**“の位置にします。(29頁参照)
3．エンジン スイッチ キーを“**停止**”の位置にするか、あるいは、抜き取っておきます。
4．リモート コントロール スイッチを“**入**”の位置にします。



5．リモート コントロール スイッチ ボックスのエンジン スイッチを“**ON (入)**”の位置にします。



6．リモート コントロール スイッチ ボックスのスタート ボタンを押し、セルフ スタータを回しエンジンを始動します。エンジンが始動するとパイロット ランプが点灯します。

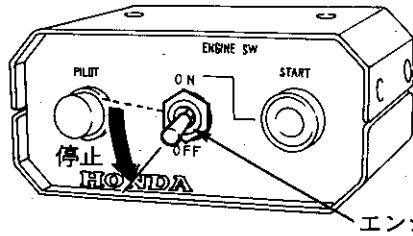


取扱いのポイント

- **セルフ モータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しない場合は、10秒以上休んでから再び始動してください。**
- **運転中はエンジン スイッチを操作しないでください。始動装置を破損することがあります。**

緊急停止

リモート コントロール スイッチ ボックスのエンジン スイッチを**“OFF(停止)”**の位置にしてください。



通常停止

1．使用器具のスイッチを切ります。
2．安全スイッチを**“切”**の位置にし差込みプラグを抜きます。
3．リモート コントロール スイッチボックスのエンジンスイッチを**“OFF(停止)”**にします。
4．燃料コックつまみを**“止”**の位置にします。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30ZA0718
00X30-ZA0-7183

© 2015 本田技研工業株式会社